

短期輪作と果樹の下作に有望な

クリムソン・クロバー

安孫子 六郎

暖地向きまめ科牧草としてクリムソン・

クロバーが、最近都府県の酪農と果樹園芸に多くの問題を提供してきたので、試作成績の概況を報告して御参考にいたしたい。

飼料綠肥作物の特質として左のような条件が考えられる。

1 栽培が容易で、土地の選択性が広く、管理が容易なこと。

2 収量が多く、家畜の嗜好性高く、栄養分に富み、生育が速く、綠肥としても効力が高いこと。

3 種子の自給が容易であること。

クリムソン・クロバーは大体右の条件を満たすものの一つと考えられる。府県における酪農經營は耕地を集約的に利用されねばならぬから、牧草類もできるだけ短期性で、しかも多毛作的で輪作に組み入れ易いことが前提となるので、府県ではいね科として交雑したものを栽培する。

種類	播種		収量	比率
	月日	刈取		
クリムソン	九・三	五・四		
赤クロバー	九・三	九・四	一〇〇貫	
	五・四	九・〇		
	二・六	一・〇		
	三・三	一・三		

右表は早春（五月早々）のクリムソン・

クロバーと赤クロバーの草量の比較である

が、全く比較にならない。これは赤クロバ

ーの最盛期は約一ヶ月後であり、また再生

力の旺盛なものであつて、この表は赤クロ

バーの不利を強調してゐるわけではなく、クリ

ムソンはかくも早期に莫大な収量を挙げ

得ることを示したものである。

性状 クリムソンは一年生の草本で直立

性であり、草丈二尺余に達し、一株二十本

乃至四十数本に分枝する。葉は三葉で、茎

葉とも毛茸が多い。花穂は長卵形で二寸

豆などに限定される。

クリムソンはまめ科作物中春季最も早く

生長し、初期収量が莫大で、家畜の嗜好性

としては豌豆、そら豆、ベック類、青刈大

豆などに限定される。

暖地向きであるが、耐寒性

と匹敵する。無雪地帯の寒風の吹き荒む中

によく越冬する。

土壌に対する選択性は少いが、他のクロ

バー類に比較してむしろ軽鬆な砂壌土、火

山灰土などによく生育し、酸度については

pH六度内外の土地でも堆肥を反当三百貫

以上与えれば赤クロバーに勝る成績を示

す。石灰を用いればさらによい。耐湿性に

ついては、水田の裏作としてレンゲ、アル

サイク。クロバーとともに試作したが今

までを可とする。

播種期 秋播きは九月上旬、遅れても九月下旬までを可とする。

播種方法 クリムソン単作の場合には、耕幅

二尺で条播する。種子量は二~三升（七合

一升）ぐらいで、畔に施肥を行い、覆土

が厚くならぬよう丁寧に播き、五分ぐら

いの覆土を行う。覆土が厚いと発芽不順い

となり、その後の生育も悪い。

間作を行う場合、すなわちクリムソンと

麦類を間作する例をとれば、九月中にクリ

ムソンを畦幅二尺五寸乃至三尺に播き、そ

の畦間に一般麦類の播きどきに施肥を行

い。

麦類を間作する例をとれば、九月中にクリ

ムソンを畦幅二尺五寸乃至三尺に播き、そ</p

